

VERITAS vos liberabit



鹿児島純心女子大学
附属図書館報
第10号(No.10)
編集:図書館運営委員会
発行日:2023.12

特集 新型コロナウイルス禍の読書

図書館報名「VERITAS vos liberabit」は、ラテン語で「真理はあなたたちを自由にする」(新約聖書ヨハネ福音書8章32節)という意味です。

■ 巻頭言

図書館長 教授 七川 正一

このたび図書館長に就任した看護栄養学部教員の七川です。この場をお借りし一言ご挨拶申し上げます。今回、大学附属図書館の管理運営という慣れない仕事に携わることになり、右も左もわからない状態で新たな職務と取り組み始めたところです。大学の教育ならびに研究において図書館のはたす役割は非常に重要です。これまでは図書館にお世話になるばかりでしたが、これからは及ばずながら皆様方のお役にたてるよう努めたいと考えています。

さて、日本漢字能力検定協会は2020年の世相を漢字一字で表現する「今年の漢字」を「密」と発表しました。2020年は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、これまでの生活様式が見直される1年になりました。大学もいわゆる3密(密閉、密集、密接)を避ける目的でオンライン授業の導入や隔週登校などが積極的に行われました。当然のことながら、大学図書館も制限付きの運営が求められ、それが現在も継続している状態です。このような状況下で、学習や研究などで困った人は多く、不便をかけたのではないかと思います。

いったん落ち着きをみせていた感染状況でしたが、現在、全国各地で新型コロナウイルスの感染者数が再び増加に転じ始めています。いわゆる第3波です。これに伴い、地域限定ではありますが非常事態宣言が発動されました。有効性が期待できる薬剤やワクチン接種にはもうしばらく時間がかかりそうな状況、変異株の出現等を考慮すると、今後も制限付きの図書館

運営が継続していくと考えられます。しかしながら、図書館はこうした時期だからこそ「知の拠点」としての更なる充実をはかっていく必要があると考えています。そのひとつとして、電子書籍の導入があります。今後、運用方法の取り決めなどを経て提供開始となる予定です。また、安全、安心のためにより本格的に書籍の消毒が可能な機器の設置も検討しています。現時点では上記のようなことしか検討されていませんが、これからも感染症と共存しながら新しい生活様式の一環として、図書館の運営の在り方を模索していきたいと考えています。

最後に、皆様方にお願ひがあります。是非とも図書館のホームページにアクセスして下さい。加えて、実際に図書館を訪問して下さい。学習意欲をはぐくむものや知的な刺激など、何かしらの発見があると思います。今後もアカデミックな環境を活かし、学術情報の基盤として教育ならびに研究の向上に効果的に利用されるよう微力ながら取り組んでいきたいと考えています。

contents

巻頭言	1
図書館長	
七川 正一	
新しい日常のなかで	2
牧原 勝志	
Book Review	3
下野 義弘	
末吉 卓也	
(こども4)大山口夏美	
(教・心1)丸田みのり	
(看護2)伊東美穂	
(健 栄2)新原清佳	
寄贈図書案内	7
純心アートギャラリー	
お知らせ	8
編集後記	



「新しい日常」のなかで---

健康栄養学科 教授 牧原 勝志

「映画の世界の話かと思っていたら、まさかこんなパンデミックが本当に起こるなんて・・・」、ある報道番組を観ながら、私の妻がつぶやいた一言である。

2020年。新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで当たり前であった日常の多くが新たな日常に取って代わり、新しい生活様式が新たな日常となった。3密を避けたり、リモートワークなどが進んだりする中、世の中には、これまでは無かった閉塞感や何とも言えぬ不安感が漂っており、人と人の心の繋がりが希薄化する心配もある。

こんな時だからこそ、私たちには、一個人として、また、地球人としてどのように生きるべきかが問われている。人が人のことを考え、本当の優しさとは何か、前向きに生きるには何が必要かなど、今一度考え、自分の心を耕し直す機会を与えられているのだ。

それを支えてくれるものの一つに、読書がある。

私は、以前、図書館に勤めていたことがある。その図書館のコンセプトは、「夢があり 夢を支え 夢を創り出す」というものであった。数万冊ある本の中には、数えきれないほどの夢が詰まっている。来館者の様々な夢の実現を支えるものも本であり、来館者とともに夢を創り出すことができるのも本であることを意味している。

毎朝9時の開館とともに新聞コーナーに座り、数社の新聞を読むことから始める人。カウンターの職員と、ある本についてのレファレンスを楽しむ人。数冊のハードカバーを選び、終日読書にふける人。実用書を手に自習室で学ぶ人。お話会に決まって親子で参加する人など。そこにはある種のルーティーンがあって、何気ない日常が、当たり前のように心地よく繰り返されていた。そして、この人たちも、これまでの当たり前の中にあつた有難さを確認したり、新しい日常を創り出したりしているに違いない。本の世界に浸ることによって、そこに自分らしい生き方や小さな夢を育みながら・・・。

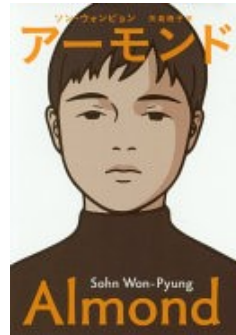




Book Review



先生方にお薦めの本を紹介していただきました



『アーモンド』
ソン・ウオンピョン著（祥伝社）

図書館所在 大学1F和書 929.13 SO

いまだに新型コロナウイルスの終息は見えない状況で、私たちの暮らしは生活全般に我慢を強いられています。私たちには本来何かをしたいという欲求があります。それだけでもエネルギーを使いますが、抑えるには欲求を上回るブレーキをかける必要があります。我慢しているときはアクセルをふかしつつ、強くブレーキをかけている状態になるために、あっという間にガソリン切れになりがちです。そして、将来への不安や疲れの蓄積、イライラなどが現れやすくなります。

コロナ禍という現実だけに、目を向けているとエネルギーを使い切ってしまうので、ストレスの解消、創造力が磨かれる、脳が活性化するなどのメリットがあるとされている読書に、よい意味で現実逃避を求めてみるのも一考です。

「アーモンド」をご紹介します。

アーモンドとは扁桃腺、つまり感情を受動する部位のことです。そこが先天的に小さかったり、発達しなかったり、強烈なトラウマにさらされるとアレキシサイミア（失感情症）になるといわれています。感情がわからない主人公ソン・ユン

ジェと、物心もつかないうちに誘拐されて不良少年となった感情の激しいゴニは、それぞれの理由から「怪物」と呼ばれ、クラスの仲間からも社会から浮いた存在でした。

共感を理解することができなかったユンジェは、できないからこそゴニをより理解しようと試み、わからないなりに知ろうとしていきます。ユンジェの姿勢からは、人間を人にするのも、怪物にするのも愛であり、決めつける前に“理解しようと考えてあげること”その共感が愛であり大切な気持ちだということが伝わってきます。

私たちは、私たちとは違う人たちに無意識にレッテルを貼ることで安心しようとしていますが、その人のありのままを受け止める努力を忘れてはいけないと教えてくれた物語でした。そして、意識の回復した母親と対面し「急に頬が熱くなる。母さんが何かを拭ってくれる。涙だ。いつの間にか、僕の中から涙が流れている。僕が泣く。そして笑う。母さんも同じだ。」のシーンで物語は終わります。自らの愛によってユンジェが初めて人間として何かを獲得した瞬間でした。

看護学科 教授 下野義弘





Book Review



先生方にお薦めの本を紹介していただきました



『愛すること』
エーリッヒ・フロム著（紀伊國屋書店）

図書館所在 大学1F和書 158 FR

美しい絵は、美しい対象が見つかりさえすれば誰でも描けるだろうか？ 美しい絵を描くには、それなりに描く技術が必要である。それと同じように、魅力的な人に出会いさえすれば、誰でも真に愛することができるだろうか？ 愛するためにも知力と努力を要する技術artが必要だとフロムは主張する。愛することほど「大きな希望と期待とともに始まりながら、決まって失敗に終わる活動や事業など」他には見当たらない。そうだとしたら、失敗の原因を調べ、愛の意味を学ぶ必要がある。「そのための第一歩は、生きることが技術であるのと同じく、愛は技術であると知ることである」。もしひとりの人しか愛さず、他の人々には無関心だとしたら、それは愛ではなく、自己中心主義が拡大されたものにすぎない。愛は「自分の人格全体を発達させ、それが生産的な方向に向かうように全力で努力しないかぎり、けっしてうまくいかない」。

また、他人に対する愛と自分への愛は両立するのだろうか？ 自分を肯定することは、自分の愛する能力に根差している。「他人しか愛せない人は、愛することがまったくできないのである」。自己愛と他人への愛は基本的につながっている。自己愛と利己主義は同じではなく正反対だと述べる。

他者との競争、比較を強いられているような現代社会において、自己肯定感が低い人が少なくないといわれる。また無責任な言動で他者を傷つけるだけでなく死に追いやる出来事も珍しくなくなってきた。今、新型コロナウイルスによる体の病が世界中を苦しめているが、人が自分をも他者をも肯定できない、愛せないということは心と魂の病を表しているのではないか。フロムは、社会心理学者としての臨床経験と深い学識に基づいて、人間の最も根源的な働きとしての愛するという能力・技術について理解させてくれる。

教育・心理学科 講師 末吉卓也



Book Review

学生さんにお薦めの本を紹介していただきました



『「凛とした魅力」がすべてを変える』
ジェニファー・L・スコット著、
神崎朗子訳（大和書房）

図書館所在
大学1F和書 590.4 SC

大学4年生になり、私は将来や就職について考える時間が増えた。そんな中、新型コロナウイルスによる打撃により、毎日ニュースで取り上げられる影響の大きさ、生活様式の変化、県外への移動禁止を見て、私は日々将来への不安が大きくなっていった。このままではいけない。そんなときにこの本と出会った。

「したくないことは、感じよくきっぱりと断る。知性を磨き、美しく装い、心をこめておもてなしをする。誰にでも礼儀をもって接し、自分に恥じない行動を取る。家族や友人が理解してくれなくても、まわりにおしゃれな人が誰もいなくても、お金がなくても、体形が気にいらなくても、そんなことは関係ない。」

この言葉は本の中に出てくる。大事なことはただひとつ、わたしたちには変化を起こす力がある

一なりたい自分になれるということ。本が教えてくれる。読書後の私は不安な気持ちを感じながらも、心は落ち着き、「もっと今を楽しもう。自分に素直になろう。」と視点が変わった。たとえばまくいかないこと、辛いことがあってもありのままの気持ちを認め、受け容れることが大切だ。受け容れて、どうすればその不安や辛さをなくすことができるのか考え、実際に取り組み続けることで、誰もがなりたい自分になれる。

本に書かれる全部を完璧にこなさなくてもかまわないのだ。大切なことは、文章の中から得たものを選択し、取り入れて自分の生活を豊かにすること。

自分自身や仲間の大切さに気づくだけではなく、日々の生活の中で、自らの振る舞いを見直したいと思える1冊。やりたいことが見つからない、何か始めたいと思っている、自分磨きをしたい方など、是非、たくさんの方の手に取っていただきたい。

今だからこそ、これまで以上に「読書」を生活の中に取り入れてみませんか。

こども学科4年 大山口夏美



『ふるさとって呼んでもいいですか: 6歳で「移民」になった私の物語』
ナディ著（大月書店）

図書館所在
大学1F和書 334.41 NA

タイトルにもあるように、この本は6歳で「移民」になった少女の物語です。そして、彼女が日本に移住してから約30年後に書かれた物語です。

仕事を求めて日本に来たナディー家は、在留資格も就労を認めたビザもない状態でした。また、当時は今よりも外国人という存在が日本人に受け入れられていない時代でした。ナディは多くの壁にぶつかります。例えば、私たちにとっては当たり前前の生活、外で遊ぶこと、友達を作ること、小学校や中学校に行くことも彼女にとっては難しいことです。

ナディが恵まれていたと思うエピソードもあります。ベビーおじさん、ゆいちゃんのおばちゃん先生、ボランティアの人々などたくさんの人々との出会いが彼女の支えとなり、彼女を導いていきます。

この物語の中で1番注目してほしいところは、ナディが自国イランに帰ってきた時の話です。彼女はそれまで、日本にうまく馴染めない自分をイラン人だから他の人と違う、イラン人だから仕方がないという風に考えます。しかし、いざイランに帰ると、日本との生活や文化の違いに衝撃を受けます。また自分という存在について疑問を抱くようになります。彼女にとってのふるさととは？自分はイラン人なのか？日本人なのか？

ナディが夢に向かって頑張る姿は、勇気と感動を与えてくれます。また、移民に対する考えや自分のふるさとについて考えたいくなるようなとても深い内容にもなっています。

是非一度手に取って読んでみてください。

教育・心理学科1年 丸田みのり



『フリーター、家を買う。』
有川浩著（幻冬舎）

図書館所在
大学1F文庫 913.6 A

私が紹介するのは有川浩さんの「フリーター、家を買う」です。この本を読もうと思ったきっかけは、図書館に立ち寄った時にたまたまこの本を見つけ、母がドラマを見ていてとにかく面白いと言っていたことを思い出したからです。

この本は、嵐の二宮和也さんが主演で2010年にドラマ化もされました。主人公・誠治は就職先を3か月で辞め夢や貯金もなく、家族関係も悪化し、いつまでも実家に居座り自堕落なフリーター生活を続けていました。そんなある日、母親・寿美子が無関心な家族の態度や近所からの陰湿ないじめに耐え続けた結果重度のうつ病になってしまい、家族のサポートと、ストレスを排除するために環境を変えることが必要だと医師から告げられました。しかし父親・誠一は仕事人間でその事実を受け入れられず、

母親を気遣うどころか避けるようになってしまい、誠治の姉・亜矢子は母親の1番の理解者でしたが、数年前に他県の開業医に嫁いでおり頼ることができない状況でした。そこで誠治が、自分が家族の中心となって母親のサポートをしていかなければならないことに気づきます。そこから就職活動をするも失敗続きで、生活のためにと給料の良い土木工事のバイトを始め、そこで出会った人々から「人生」や「働く」ということの意味を学び、自分にも目標が必要だと考え「家族のために家を買う」ことを決意しました。そこから誠治の人生の再出発が始まるという物語です。

人生に遅すぎるといえることはなく何度だってやり直せる、気づいた時から頑張ればいい、また家族の絆というものをこの本は教えてくれました。また、私は誠治の不器用なところや自分のことではいっばいになって周りの変化に気づく余裕がなかったところなど自分と重なる部分があり、誠治が不器用ながらも成長する姿に感動し自分も頑張ろうと思うことができました。ぜひ皆さんも手に取って読んでみてください。

看護学科2年 伊東 美穂



『生まれてはならない子として』
宮里良子著（毎日新聞社）

図書館所在
大学1F和書 289.1 MI

皆さんは「ハンセン病」について知っていますか？

私がこのハンセン病を知ったのは小学5年生のときです。この「生まれてはならない子として」という本は、ハンセン病を罹患した両親のもとに生まれてきた人の人生を綴っています。ハンセン病とは皮膚と末梢神経を変病とする抗酸菌感染症のことで、早期に適切な治療を行わなければ、痛い、熱い、冷たいといった感覚がなくなることがある病だそうです。私たちが生まれる少し前まで、ハンセン病は感染リスクの高い病気として強制隔離されてきました。この病を患っている人が妊娠すると強制的に中絶、または早産させられ、胎児はホルマリン漬けにされ保管されたそうです。

この本の筆者である宮里良子さんは、4歳まで両親と一緒に生活することができますが、第二次世界大戦後に新しい憲法のもとで行われた‘無らい運

動’によってハンセン病を罹患していた両親と引き裂かれます。この頃、ハンセン病は恐ろしい伝染病だと騒がれ、まるで罪人のように世間のさらし者にされ、筆者の両親は星塚敬愛園へと収容されたそうです。

現代、新型コロナウイルスという恐ろしいウイルスが全世界の人々の健康を脅かし続けています。私たちが住んでいる日本でも毎日のように感染者が増え、重症化した人は亡くなるケースもあります。また、新型コロナウイルスに感染し家族と離れ、病院やホテルで隔離され生活している人もいます。そのような現代と、ハンセン病で隔離されていた時代は少し似ている環境だと感じました。

この本を読み、また現代流行している新型コロナウイルスのニュースを見聞きし、人は周囲と助け合いながら生活ができているということを改めて感じました。今、何不自由ない生活をできていることを幸と思い、周囲に感謝して生活しなければならないということを改めて考え直す良い機会を作ってくれた本だと思います。ぜひ、読んでみてください。

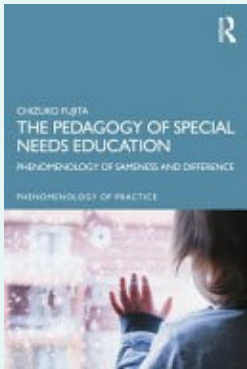
健康栄養学科2年 新原 清佳



Thank you



著書を寄贈していただきました!



藤田千鶴子先生より
(教育・心理学科教授)

The pedagogy of special needs education : phenomenology of sameness and difference

By Chizuko Fujita
Routledge, 2021

ISBN : 9780629585355

図書館所在 2階洋書 378 FU

障害のある子どもたちの理解というと、どうしても障害のない子どもたちとの比較になり、障害の有無による相違点に焦点があてられ、いわゆる健常者との相違点、障害児としての共通点が強調され、一人ひとりの子どもたちのその子らしさは置き去りにされ、障害児というくくりのなかに埋もれてしまいがちです。本書では、子どもたちによって生きられている経験を共にし、「食べること」「眠ること」「指遊び」「微笑みあうこと」等々、日常の何気ない活動から筆者が学んだ事柄を現象学の立場から考察し、障害の有無に限らず個々の子どもより深い理解への方法を探ろうとする試みです。

★装丁（色、写真）も藤田先生のchoiceだと伺いました。



純心 * アート ギャラリー

図書館棟2階の回廊のアートギャラリーの絵画をゆっくり鑑賞されたことがありますか。興味を持っていただこうと企画し、図書館報で1作品ずつ紹介していきます。シリーズ第4作品目は、「小椅子の聖母」です。



「小椅子の聖母」

ラファエロ・サンツィオ
Raffaello Sanzio
(1483-1520)

ピッティ美術館蔵(フィレンツェ) ■ ■
1514年頃 油彩 板



円形の画面の曲線に沿うように描かれた聖母子。円形のバランスのよい構図を作るために右に洗礼者ヨハネ、左には親しみ易さを出すために玉座を簡略化した装飾的な小椅子が描かれています。このような円形画面は「トンド」と呼ばれ、「円は無限の宇宙を表す」と考える新プラトン主義を背景に、ルネサンス期に流行しました。トンドの起源は古代の円形コインや教会建築において“バラ窓”と呼ばれるステンドグラスの円形の採光窓と言われています。画面の円形を意識せず描く画家が多かった中、ラファエロは構図を十分に配慮し円形を生かして描いています。

ラファエロの作品を知るために…

- ・『週刊世界の美術館』No.35 講談社, 2009年
- ・『聖母マリアの美術』, 諸川春樹, 利倉隆著 美術出版社, 1998年
- ・『ラファエロ』, クリストフ・テーネス著 TASCHEN, 2006年
- ・『ルネサンス美術館』, 石鍋真澄監修 小学館, 2008年
- ・『もっと知りたいラファエロ: 生涯と作品』池上英洋著, 東京美術, 2009年
- ・『ラファエロ: 作品と時代を読む』越川倫明ほか著, 河出書房新社, 2017年 ほか



お知らせ

◆感染症対策に努めています

- ・入館・退館の際は手指消毒を
- ・パソコン、タブレットの使用前と使用後は手指消毒を
- ・洗面所使用後は洗面台、蛇口の消毒を
- ・座席の間隔をあけて着席を
- ・マスクの着用を

その他、感染症対策を心がけましょう

感染症拡大防止に
ご協力ください



古本募金のご報告



古本募金を開始して4年目となりました。
今年も沢山の本を寄付していただきありがとうございました。いただいた古本は換金され「純心未来基金」へ積み立てられ、学園の教育・研究のために役立てられます。これからも宜しくお願いします。

2020年度 寄付金額合計	63,366円
(内訳)	
大学の除籍本・回収ボックス	50,851円
卒業生・保護者・旧職員ほか	11,117円
鹿児島純心女子短大図書館	398円
きしゃぼん（嵯峨野株式会社）	1,000円

卒業後も利用できます

在学時より利用制限はありますが、貸出も可能です。ご利用下さい。（*貸出冊数5冊、貸出期間2週間）
大学に来られたら、まず大学の受付で入館の手続きを行って下さい。その後、図書館へお越しください。
皆様のご利用をお待ちしています。ただし、新型コロナウイルスが終息するまでは利用できません。ご了承下さい。

編集後記

今年の図書館報のテーマは「新型コロナウイルス禍の読書」というテーマにしました。自宅待機や外出自粛が続く中、「禍(わざわい)を転じて福となす」と考えれば、集中的に読書するちょうど良い機会だともいえるのではないのでしょうか。また、今回のような事態を“想定外”ととらえる方も多いと思いますが、これまで人類は似たような状況を何度も経験してきました。決して“想定外”とは言えないのです。その“予言”は数々の書物に書かれていました。東北地方太平洋沖地震による津波や福島第一原子力発電所の事故の危険性も多くの書物に書かれてきていました。歴史に無知であってはならない、先人たちの伝えようとしている事に無関心ではいけない、と言うことをコロナ禍の今、再び考える必要があるのではないのでしょうか。その第一歩は読書だと思います。様々な事柄に関心を持ち、本の森の中を歩いてみてください。
(KM)



鹿児島純心女子大学附属図書館報

VERITAS vos liberabit

No.10

編集・発行：図書館運営委員会

発行日：2021年3月12日

〒895-0011

鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地

TEL：0996-23-5311 / FAX：0996-23-5030

E-mail: veritas@jundai.k-junshin.ac.jp